

CLTの活用促進に向けた課題(ヒアリング等における主な指摘)

○CLTの認知度が低い

- ・CLTそのものを知らない施主が多い。(有識者)
- ・CLT活用の魅力が施主に伝わっていない。(有識者)
- ・性能面、採用メリットに対する懸念があり、採用に至らないことがある。(業界団体)
- ・施主に対し、耐久性のエビデンスがないため、説明しづらい。(業界団体)
- ・SDGsへの貢献、特にCO2削減を採用根拠にしたいが、情報が不足しており、環境貢献度(CO2固定等)がわからない。(業界団体)
- ・幼稚園・保育所、小・中学校の木造化を進めるべき。(業界団体)
- ・CLTパネルに関する情報公開が少ない。(業界団体)
- ・CLTの活用が社会的にも意義のある点について理解されていない。(工務店等)

○コスト面の優位性が低い

- ・オーダーメイド型の多品種生産が効率性を下げている。(業界団体)
- ・CLTパネルの用途に応じた標準寸法がない。(業界団体)
- ・事例が少なく、施主、設計者が他工法とコストなどを比較しづらい。(業界団体)
- ・他の工法と比べてコスト高になるので採用しにくい。(工務店等)
- ・パネルに加えて金物部分のコストが負担になっている。(工務店等)

○需要に応じたタイムリーな供給を行えていない

- ・中大規模木造など木材使用量が多いほど集めにくい。(業界団体)
- ・年末になると製造工場が手一杯で発注を受け付けてもらえない。(業界団体)

CLTの活用促進に向けた課題(ヒアリング等における主な指摘)

○CLTの活用範囲が狭い

- ・非等厚構成や異樹種混合のCLTに基準強度が与えられていない。(業界団体)
- ・複雑な計算を不要とする基準告示の範囲をさらに拡充していく必要がある。(有識者、工務店等)
- ・中層建築物の構造設計手続きが煩雑。(工務店等)
- ・建築分野以外での活用が進んでいない。(有識者)

○CLTの設計・施工等をしてくれる担い手がみづかりにくい

- ・CLT建築物の設計を誰に頼んだらいいのか、わからないケースがある。(自治体・業界団体)
- ・木造の設計に慣れた設計者は増えてきたが、まだ少ない。(自治体・工務店)
- ・ルート1以外の構造計算や解析モデルが難解で取り組みにくい。(業界団体)
- ・非木造をやってきた設計者が、木造設計に取り組みやすい環境整備が必要。(有識者)

- ・ルート2、3の設計において一貫ソフトがないため、敬遠される場合がある。(業界団体)
- ・CLTパネル工法等による構造設計・計算検討のデジタルトランスフォーメーションが必要。(業界団体)
- ・木造の設計に慣れた設計者は増えてきたが、まだ少ない。(自治体・工務店)
- ・非木造をやってきた設計者が、木造設計に取り組みやすい環境整備が必要。(有識者)

○維持・管理の方法が分かりにくい

- ・建築後の防腐・防蟻など維持・管理について、情報が整っていない。(自治体・業界団体)
- ・建築コストに加えて維持管理費用が曖昧になっている。(業界団体)
- ・木材の耐火、防腐性能への不安がある。(自治体)